



学校・家庭・地域をつなぐ

# 塩浜小 学校だより

令和3年9月30日

No.15

## 全国学力・学習状況調査結果

5月27日に実施されました「全国学力・学習状況調査」の分析結果および改善にむけた取り組みについてお知らせします。

### 1 調査から見られる本校6年生の「強み」と「弱み」

#### 【国語】

全体としては、全国平均をやや下回る結果となったが、個々に詳しく見ていくと、漢字の書き取り、言葉の特徴や使い方に関する問題では全国平均を上回っており、無回答率（答えを書かずに空欄になっている割合）も低い。しかし、説明文のように、資料を見ながら丁寧に読み進めていくような問題や、文字数を制限されたり使う言葉や文を指定されたりするなど、提示されたいくつかの条件を満たしながら内容を要約し記述する問題については課題が見られ、無回答の児童もいた。

国語の基礎的な知識はあるものの、長い文章を落ち着いて最後まで読むことに苦手さを感じている児童が多い。そのため、文章の内容を要約して書くことや話の流れに沿って自分の考えを書くことが難しく、「読むこと」「書くこと」に弱さが見られた。

#### 【算数】

グラフの読み取りなどデータを活用する問題や簡単な速さの問題等では、全国平均を上回るものもあった。しかし、2つの二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方を説明する問題やいくつかの事柄を結び付けて考察する割合の問題などで課題が見られた。

昨年度より、基礎的な問題【A問題】と活用力をみる問題【B問題】との区別がなくなり、両方の要素を取り入れた問題となった。そのため、一つ一つの問題文が長くなっている。「読むこと」「書くこと」に課題が見られる児童にとっては、文章を読みながら頭の中で考えを組み立てていくことや、答えの導き方を式や言葉を使って説明することが難しかったようだ。日々の授業の中で、どのようにして答えを導き出したのか、筋道を立てて話したり書いたりする活動を取り入れていく必要がある。

#### 【児童質問紙より】

・本校6年生は、ほとんどの児童が朝食を摂ってきている。また、毎日同じくらいの時刻に起きることもできている。ただ、「毎日同じくらいの時刻に寝ている」児童の割合が全国平均に比べて低かった。児童の中には、夜遅くまで起きている児童がいるのではないかと思われる。成長期の子どもたちにとって、睡眠時間を確保することが大切であることを繰り返し伝えていきたい。

・平日（月曜日から金曜日）に、テレビゲーム（スマホゲームも含む）を1日3時間～4時間している児童が70%ほどいる。一方、家庭での学習時間は、1時間より少ない児童が80%近くいる。家庭学習の時間を確保し、習慣化させる必要がある。

・「将来の夢や目標を持っている」「学校に行くのは楽しい」「人が困っている時は、進んで助ける」「いじめはどんな理由があってもいけないこと」「自分と違う意見について考えるのは楽しい」「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」などの質問では、肯定的な回答をする児童が多かった。規範意識や仲間づくりの基礎が培われている。これは、小規模校の強みであり、クラス替えがなく、6年間同じクラスの仲間たちと共に生活してきたことで、子どもたち同士のつながりが強められたと考えられる。

・「英語の勉強が好き」「英語で自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができた」と感じている児童が、全国平均より高い。これからも、いろいろな場面で英語を使う機会を大切にしていきたい。

### 2 学校質問紙からみた本校の特徴

・本校は職員数が少ないため、常に、全職員で児童についての情報交換を行うことができ、職員全員で全校児童の指導にあたることができる。これは本校の強みである。授業改善についても、授業の進め方について全職員で共通理解することができるよう、定期的に授業を参観し合う機会を設けたり、学年

部で授業の進め方について意見交換をしたり、ともに教材研究をしたりしながら研修を進めている。そのため、学校質問紙「教職員の資質能力の向上」や「授業改善」について高い数値を示している。  
・本校では、昨年度よりタブレットを使った授業が本格的に実施されている。小規模校であるため、全職員で声をかけ合いながらICT機器を使った授業に取り組むことができた。調べ学習や子どもたち同士の意見交換にコンピュータなどのICT機器を活用する取り組みが、全国平均と比較して高い数値になっている。

### 3 改善への取り組み

#### 【家庭学習の定着】

「読む」「書く」「計算する」などの基礎的・基本的な学力を定着させるために、毎日の家庭学習が不可欠である。児童が、家庭学習に取り組むやすいように「学んでE-net!」「タブレットドリル」を使い、各自の理解度に合わせて繰り返し復習をするようにさせる。また、家庭学習ができなかった児童に対しては、休み時間や放課後の時間を使ったり、家庭の協力を得たりしながら取り組ませ、中学校へむけて学習習慣を身につけさせていく。

#### 【言語能力の育成】

国語・算数に共通していることとして、長文を「読む」こと、自分の言葉で「書く（説明する）」ことに課題が見られる。これらを克服していくためには、日々の授業の中で、学習の振り返りや感想、観察や実験したことを「書く」活動を大切にしていきたい。まず、自分の考えや思いを自由に書き綴ることに抵抗がなく取り組むことができるようにしていきたい。さらに、新聞記事やワークシートなど多様な文章や資料に触れ、目的や意図に応じて自分や筆者の考えをまとめて書いたり、提示された条件（字数や接続語・キーワードなど）を満たして書いたりする活動に取り組ませ、言語能力の育成を図る。

#### 【授業改善】

授業では、児童が「分かった」と思えることが重要である。そのために、授業のはじめに課題を提示し、その時間に学ぶ内容を意識させる。また、授業の最後には、「何が分かったか」について自分なりの言葉で表現させる。

また、自分の思いや考えを伝え合い、ともに高めていけるような学び合いの授業をめざす。授業の中で自分の考えを話したり説明したりすることに苦手意識を持っている児童もいる。人前で話したり表現したりすることが抵抗なくできるよう、発表の機会を繰り返し設けたり、ペア学習やグループ学習など学習形態を工夫したりする。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、長時間での「ペア学習」や「グループ学習」を取り入れることは難しいが、短時間でも意見交換する場を取り入れ、「伝えてよかった」と思えるような経験を積み重ねていく。

#### 【読書活動の充実】

本年度、読書活動推進校の指定を受け、図書委員会による図書館まつりや家庭読書の取り組み、図書ボランティアによる読み聞かせなどを行い、児童が読書に親しむ機会を意図的に設けている。これらの取り組みを引き続き行い読書活動を充実させることで、語彙力や表現力をつけていきたい。

#### 【キャリア教育の充実】

児童一人ひとりが「自分の将来について夢や目標」を具体的に持つことで、学習への意欲を高めていきたい。そのために、総合的な学習の時間において、キャリア教育に取り組み、将来にむけて社会人としての自覚を持つことができるよう育てていきたい。

家庭学習をしっかりと定着させることが  
学力向上に有効とされています。



「家庭学習の手引き」に示されている時間を達成しましょう

1年生→10分以上

2年生→20分以上

3年生→30分以上

4年生→40分以上

5年生→50分以上

6年生→60分以上

なお、本調査により測定できるのは、学力の一部であるとともに、学校における教育活動の一側面の結果であることをご理解ください。